

# 2001年度（平成13年度）第4回理事会記録

日時：

2001年11月30日（金）15:00～17:30

場所：

学士会分館7号室

出席者：

廣川信隆（理事長）、井上芳郎、堀口正治、高田邦昭、佐藤達夫、高野吉郎、山科正平、杉浦康夫、田中重徳、塩田浩平、河田光博、仙波恵美子、瀬口春道、猪口哲夫、村田長芳（以上理事、但し、佐藤理事、高野理事は途中より参加）、上田秀一、内山安男（以上監事）、依藤宏（幹事）、小森雄一郎（学会事務センター）

欠席者：

野条良彰、村上宅郎（以上理事）

## I. 議事録署名人の選任

井上芳郎（北海道大）、田中重徳（金沢大）の両理事が今回の議事録署名人に選任された。

## II. 報告事項

1. （財）藤原科学財団からの「第43回藤原賞 受賞候補者」推薦依頼の件（推薦締切：2001年1月31日必着）：  
理事、支部長、学術委員会委員長、教育委員会委員長より候補者の推薦を受け、常務理事会で決定することが承認された。尚、常務理事会への推薦期日は締切の1月31日の2週間前とされた。
2. 解剖学雑誌和洋分離刊行について：  
解剖学雑誌和洋分離刊行の準備進行状況につき、高田編集担当理事より報告があった。欧文誌Anat. Sci. Int. (ASI) については科研費補助金の申請を行ったが、実績、総ページ数などから交付については難しい状況である旨も報告された。
3. 学会ホームページについて：  
高田理事より学会ホームページの理事長挨拶が更新されたこと、解剖学用語委員会（清木勘治委員長）の「日本語による解剖学用語」（案）がホームページ上で公開され、2001年11月1日～12月31日の間、委員からの意見を募集していること、ASIを電子ジャーナル化すること、会議記録、委員会ニュースも掲載することなどが報告された。
4. 第106回総会・全国学術集会開催報告が会頭の瀬口理事から行われた。尚、最終的な会計報告は後日の予定。
5. 第107回総会・全国学術集会開催準備状況について：

参加登録数平成13年11月21日現在約700、演題登録総数422題など、準備状況が河田企画・渉外担当理事より報告された。尚、今回日米合同シンポジウムは実施されない。

6. 第3回APICA（2002年度開催）準備状況について：  
演題総数221題、その他を含めると234題、海外からの参加者13カ国96名の登録があり、現在シンポジウムの人選等を進めている旨、河田理事より報告があった。
7. 第16回国際解剖学会（2004年度開催）準備状況について：  
学術会議に共同主催の要望書を提出し補助金を申請するなど、準備は着々と進行している旨、報告された。
8. 賛助会員及び寄付拡大キャンペーンほか、会計報告について：  
賛助会員及び寄付拡大キャンペーンの途中経過及び会計の執行状況はほぼ予定通りとなっている旨、山科会計担当常務理事より報告があった。

### III. 審議事項

1. 永年会員推薦の件：  
永年会員推薦候補者一覧が提示され、所属の校正ミスが指摘された以外は原案のとおり承認された。
2. 2002年度文部科学省科研費審査委員候補者選出選挙「推薦委員会」設置の件：  
「推薦委員会」委員の氏名（案）が提示され、審議の結果1名定年退職される方を入れ替えた上で承認された。尚、委員の氏名は以下の通りである。佐藤達夫（委員長）、猪口哲夫（担当常務理事）、井上芳郎、高野吉郎、田中重徳、山科正平（以上6名は現理事）、妹尾春樹（教育委員会委員長）、山下和雄（解剖組織技術士資格審査委員会委員長）、柴田洋三郎（学術委員会委員長）、小澤英浩、水野昇（以上5名は理事以外）。
3. 特別委員会「倫理委員会」設置の件：  
解剖学関連研究に関わる倫理的側面を検討し、学会としての統一見解をまとめる「倫理委員会」の設置と委員構成が提案され、審議の結果了承された。尚、「実際に関連分野の研究を行っている人」や「外部の法律専門家」を含めてはとの意見も出されたが、必要に応じてこれらの方々には専門委員として加わって頂くとの結論になった。委員構成は以下の通り。河野邦雄（委員長）、井端泰彦、小澤英浩、坂井建雄、水野昇、宮内亮輔。
4. 2002年度（平成14年度）事業計画（案）の件：  
2002年度（平成14年度）事業計画（案）が提示され、異議なく承認された。
5. 2002年度（平成14年度）予算（案）の件：  
山科会計担当理事より資料に基づき2002年度（平成14年度）収支予算案の説明が行われ審議の結果、原案通り承認された。
6. 会員名簿（2002年度）刊行の件：猪口庶務担当理事より作成スケジュール、CD-ROM化、配布形式、オンライン化、掲載形式、経費などの諸点について報告が行われ審議の結果、冊子版を主、CD-ROMを従とし、ともに有料予約出版とすること、オン

ライン化は時期尚早であること、掲載形式は所属機関別と50音順の折表様式とすることが承認された。

7. 2002年度（平成14年度）以降の解剖学会抄録号の取扱について：

表記の件について審議した結果、

- i. 和文誌の頁数から抄録を本文として掲載することは難しいこと、
- ii. 全国学術集会の抄録は和文誌のSupplementとすること、
- iii. 地方会抄録も全国学術集会のSupplementに同時に掲載すること、
- iv. 印刷は全国学術集会の当番校に御願いすること、
- v. 発行にあたっては本部より補助金を出すこと、

などが承認された。

8. 2004年度（平成16年度）解剖学会総会の開催方法について：

2004年度（平成16年度）の全国学術集会は8月に国際解剖学会と同時開催されるが、総会は定款に基づき、3月に東京で開かれることが承認された。シンポジウム、ワークショップなどを併設するかは今後の検討課題とされた。

9. 名誉会員・永年会員について：全名誉会員・永年会員に対して実施したアンケートの結果

- i. 教授退任後は殆ど全て名誉会員となる旧制度の在り方には疑問が多く、今後基準を見直して限られた方のみ名誉会員に推薦される制度であるべき、
- ii. 名誉会員・永年会員への解剖学雑誌の無料配布については無条件の配布は改め、「希望者のみ有料で配布する」ことが望ましい

を受け審議した結果、iは継続の検討課題とすること、iiは学術評議員会にかけることが承認された。

10. 支部学術集会の在り方について：

交通・情報伝達手段が発達し、また全国学術集会のさらなる充実の必要な現在においては支部学術集会を見直してはとの意見もあるが、地域による活発さの相違、全国学術集会では得られない利点・意義なども見受けられることから全体との整合性をとりながらその推移を見守ることが承認された。尚、支部学術集会抄録の扱いに関しては前記III-7参照。

11. その他：

- i. 学術会議解剖研連平野寛委員長より、2003年度（平成15年度）以降の科研費審査委員候補者選任につき、

a. 研連所属の他の学会との協議に要する時間を確保するため、できるだけ早期に候補者を選定すること、

b. 細目のキーワードを念頭において適切な候補者を選出すること

の2点の要望が理事長宛に伝えられた。これを受けて審議した結果、当該年度以降の選出過程をできる限り早期に行うことが承認された。

- ii. 山科理事より学会活動を社会にアピールし、かつ収入を得る方法として講演会、ワークショップ、シンポジウムなどを企画することの提案がなされたが、継続審議とすることで了承された。